

令和元年度事務事業評価シート(平成30年度実績)

◎基本情報

事務事業名	広報なると・テレビ広報充実事業		担当部署	企画総務部 秘書広報課		
総合計画体系			根拠法令 計画など	なし		
基本政策(大項目)	4	おおきく躍動みんなで創るまちづくり	事業 期間	開始	昭和	26 年度
政策(中項目)	1	全員参加で創るまち なると			終期	未定
(小項目)		情報の共有化				
施策	4	情報の共有化の推進				
基本事業	1	広報活動の充実				

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 全市民						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	紙面や動画を活用し、行政情報等をわかりやすく紹介するとともに、より多くの市民が見てくれるような広報紙及びテレビ広報を制作し、市政への関心や参画につなげる。						
事業計画	30年度に何を計画していたか	平成30年が「第九」アジア初演100周年にあたることから、多くの市民とともに祝賀する機運を高められるような紙面・広報番組作りに努める。また、広報モニターは引き続き、若い世代の方に担っていただき多様な意見を抽出できるようにする。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	単位
		広報モニターの肯定的評価	70.00	70.00	70.00	70.00	70.00	%

◎実施結果(DO)

事業実施内容	30年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	平成30年が「第九」アジア初演100周年にあたることから、多くの市民とともに祝賀する機運を高められるような紙面・広報番組作りに努めた。 また、広報モニターにこれまで就任していただいている自治会の方に加えて、大学生や女性に就任していただくことで、幅広い世代から意見を抽出することが可能となり、より多くの意見を広報活動に反映することができた。					
事業実施手法		<input type="checkbox"/> 市実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他					
指標名		29年度実績	30年度実績	元年度目標	2年度目標	3年度目標	単位
活動指標 <small>実施した事業の活動量を示す指標</small>	1 広報紙による市政の特集回数	7	8	10	10	10	回
	2 テレビ広報で市長の施策紹介回数	2	2	3	3	3	回
成果指標 <small>対象にどのような効果があったかを示す指標</small>	広報モニターの肯定的評価	84.8	86.3	—	—	—	%
	目標達成率(実績/目標)		123.3	—	—	—	%
今年度の進捗状況	計画どおり	事業全体の進捗状況		計画どおり			

(千円)

財源内訳	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
	平成30年度	当初予算額	0	0	0	728	12,083	12,811
		補正予算額	0	0	0	0	0	0
		繰越予算額	0	0	0	0	0	0
		全体予算額	0	0	0	728	12,083	12,811
		決算額	0	0	0	781	11,285	12,066
		繰越額	0	0	0	0	0	0
	人件費	正規職員(7,321千円/人)	臨時職員(2,125千円/人)		総人件費		総事業費	
		2.0	0.0		14,642		26,708	

事業費推移	年度	29年度決算	30年度決算	元年度	2年度	3年度
	事業費	12,050	12,066	12,807	12,807	12,807
	うち一般財源	11,321	11,285	12,026	12,026	12,026
	人件費	14,468	14,642	14,642	14,642	14,642
	総事業費	26,518	26,708	27,449	27,449	27,449

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値	所見欄
①活動に対する評価	有効性	A:有効性があった	市民と市政をつなぎ、生活に関わる不可欠な情報を提供する事業であるため、より有益でわかりやすい情報提供を心掛けた。今後もブラッシュアップし、評価向上に努める。
	効率性	A:効率的だった	さらなる効率化を進めるためには、職員の知識・スキルの向上が必要となるため、実務を通じて職員の資質向上を図った。
②成果に対する評価	指標名	広報モニターの肯定的評価	
	目標	70.0	%
	実績	86.3	%
	評価	A:目標を達成できた	
③総合的な評価		A	評価とする目標は達成したため、A評価とするが、今後も内容をより充実させ、一層の効率化を図れる可能性があるため市民や、広報モニターの評価を向上させるように努力する。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	テレビ広報においては、平成25年から15日間隔で放送をしているが、間隔を短くするなどして、情報発信の拡大を検討する。また、放送する際のテロップ・デザインの改善など、より親しみを持っていただける番組づくりを心掛けていく。広報なるとに関しては、各課からの掲載依頼が増加傾向にあり、現状の頁数では、対応が難しくなっている。テレビ・広報紙ともに、増ページ・放送時間の拡大はさらなる経費がかかることや、現状の人員の業務量の関係から十分な検討が必要である。内容については広報モニター等市民の意見も聞きながら改善に努めたい。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	2
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	R1年度	さまざまある課題を整理し、効果的に情報発信を推進し、市民等の関心や満足度を高めるため、「鳴門市広報戦略プラン」を改訂するとともに、同プランを推進するための職員の実践指針である「鳴門市パブリシティマニュアル」の改訂を行う。			
	R2年度	改定した「鳴門市広報戦略プラン」と「鳴門市パブリシティマニュアル」に基づき、効果的かつ分かりやすい情報発信に努め、広報・広聴活動のさらなる充実を図る。			